

企画展

# プラネタリウム100周年

2023

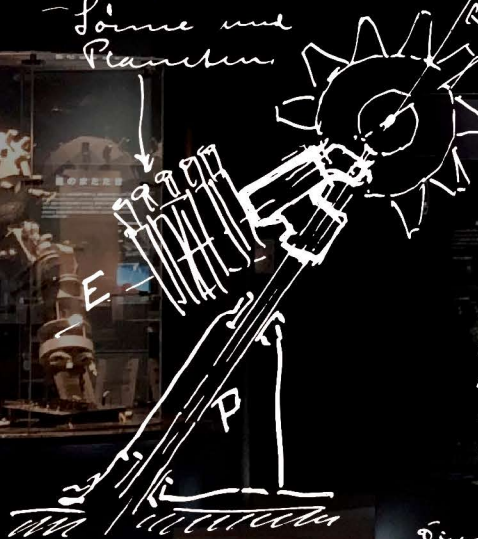
9/26(Tue) - 10/22(Sun)

größtenteils durch erfahrung der feld

Ein richtung zur komischen Darstellung  
der Präzession

Sonne und  
Planeten

Polare  
Achse der Ekliptik



Die Fixsternzeit  
ganz der Planeten  
wird nicht fest zum  
der Polare Präzession,  
sondern wird noch  
sinnvoll zum der  
Ekliptikachse E drehbar  
genommen

Die Zusammenhang zwischen  
Fixsternzeit und Planeten  
wird durch diese Andienung  
nicht berührt. Die Drehung  
zum der Ekliptikachse  
erfolgt in ca. 25800 Jahren  
sinnvoll zum 360°

Die vor gezeigten Drehung mit  
sprechend, die ja auch für die  
Sonne und Planeten gelten muss, muß  
die Übertragung zwischen  $\omega_1$  und  $\omega_2$  zum  
ca.  $1 \cdot 25800 \cdot 360$  korrigiert werden

© ZEISS Archive

- \* 時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- \* 会場：名古屋市科学館 天文館5階展示室「宇宙のすがた」
- \* 料金：入場無料（科学館の入館に所定の観覧料が必要）
- \* 休館日：毎週月曜日（※10/9（月・祝）を除く）、10/10（火）、10/20（金）
- \* 主催：名古屋市科学館
- \* 協力：日本プラネタリウム協議会、カール・ツァイス・イエナ GmbH、  
有限会社大平技研、コニカミノルタプラネタリウム株式会社、  
株式会社五藤光学研究所、株式会社リアルビズ



名古屋市科学館イベント情報 ▶







©Deutsches Museum

近代的な光学式プラネタリウムは今から100年前のドイツで生まれました。ドイツ博物館の依頼により、光学メーカーのCarl Zeiss社が作ったプラネタリウム「ツァイスI型」で、1923年10月21日に初めて関係者向けに公開されました。その後、改良が加えられたツァイスI型は1925年5月7日からドイツ博物館に常設で設置され、一般に公開されました。この100年でプラネタリウムは世界中に広まり、進化を遂げています。今年2023年から2025年にかけては、プラネタリウムの100周年を祝う記念事業が世界各地で行われていきます。

## 日本とプラネタリウム

日本で最初に設置されたプラネタリウムは大阪市立電気科学館の「ツァイスII(2)型」で、1937年のことでした。戦後、1950年代末には国産のプラネタリウムも生まれ、日本各地にプラネタリウム施設ができるようになりました。1962年には名古屋にも「ツァイスIV(4)型プラネタリウム」が設置され、11月3日に市立名古屋科学館(現在の名古屋市科学館)がオープンしました。それから約50年間活躍したツァイスIV型は多くの人に親しまれ、現在も展示室に動態展示されています。企画展期間中は、このツァイスIV型を実際に動作させる予定です。



## プラネタリウムのしくみ



現在では様々な種類のプラネタリウムが開発され、星を映し出す手法も多岐に渡ります。2011年にリニューアルした当館の光学式プラネタリウムはツァイス製の「ユニバーサルIUM IX(9)型」で、システム全体がコンピューター制御になっています。一方、昔のプラネタリウムは、全て歯車などの機械じかけで動いていました。惑星を投影する機構や、そのしくみについて見てみましょう。ツァイスIV型のオリジナル図面も初公開します。

## デジタル式プラネタリウム

当館の現行のプラネタリウムは光学式(ユニバーサルIUM IX型)とデジタル式のハイブリッド式プラネタリウムとなっています。デジタル式プラネタリウムはコニカミノルタプラネタリウム製の「Media Globe Σ SE」で、2021年に導入されました。デジタル式プラネタリウムはドーム全体を覆う全天周デジタル映像(CG)により、まるで宇宙旅行に出かけたような体験をすることができます。企画展では展示室にミニドームを設置し、デジタル式プラネタリウムの映像とその投影方法について紹介します。

